

生活クラブ安心システム・街の縁側推進室 始動！

地域包括ケアシステムの実現や地域共生型社会の推進として「生活クラブ安心システム」に取り組んで5年が経過しました。

2019年度には安心支援システム（以下安心システム）の定義を見直し、日常生活圏域の地域住民を対象に「生活クラブ風の村の拠点施設がある日常生活圏域で、食や環境や福祉など様々な生活課題について、住民主体のやりたいことの実現を通じ、地域の支えあいを応援する」としました。

推進室の支援の柱は、運営支援と人材育成支援！

- ① **集中支援**
コミュニティデザインの手法で人材育成に取り組む拠点を3か年支援します。
- ② **相談支援**
定期的に拠点や街の縁側を訪問し、活動参加をとおして相談に対応します。
- ③ **啓発・人材育成**
安心システムやボランティアを理解するための講座や活動運営方法などの研修を企画します。
- ④ **広報**
広報紙の発行やホームページの開設をとおして拠点の活動の情報発信をします。
- ⑤ **安心システム実践交流会の企画運営**
拠点や街の縁側の情報共有と交流機会の創出をはかります。

現在、8か所の拠点で安心システム、7か所で街の縁側が展開されています。この間、活動は大きく広がりましたが課題も見えてきました。安心システム推進会議の運営や地域で活動する団体との連携した活動展開、地域住民の参画です。街の縁側においてもおたがいさまシートが活用されないなどがあがっています。このような課題から、今年度、安心システム推進会議や街の縁側の運営を下支えするものとして「生活クラブ安心システム・街の縁側推進室（以下推進室）」が設置されました。



今年度は、2名の推進員と1名の事務局で活動しています。新型コロナウイルス感染症の蔓延により拠点の訪問が当初の予定より遅れ、7月下旬からになりました。8拠点中7拠点の訪問を終え、順次安心システム推進会議やフードパントリーなどの企画、コミュニティデザインの研修に参加しています。また、広報紙の発行や安心システム実践交流会の準備に取り組んでいます。これまでの拠点の活動を理解し、交流をはかりながら活動のお手伝いをさせていただこうと思います。どうぞよろしくお祈りします。

～ メッセージ ～

新型コロナウイルス感染拡大している今、これほど人が恋しいと思ったことはかつてなかったのではないのでしょうか。普段あたり前だった会話、時には煩わしいと感じるつき合いも失ってみてそのありがたみに気づいた人は多かったのではないのでしょうか。

人とのつながり。それはさみしさを紛らわすだけではありません。ときには住んでいる地域に活力をもたらす原動力にもなります。コロナ禍で地域の飲食店に閑古鳥が泣き、あまりの不景気に市民有志が飲み会を開催。こんなこきこそ助け合おうと地域のを地域で買おうという動きが出てきている。そんな記事を読みました。

生活クラブ千葉グループ協議会共同代表 福住 洋美

人と人がつながって助け合いが自然と生まれること。いくつになっても役割と出番があり健康であること。ずっと住み続けたいと思えること。今自分の住んでいる地域がそんな場所になるといいですね。

生活クラブ千葉グループで取り組む安心システムと街の縁側づくりは住民が主人公。推進室の様々な支援がそこに暮らす人たちに寄り添い、住民の原動力を引きだし、生活クラブ安心システムっていいシステムだね。街の縁側があってよかった。と地域にとってあたり前の資源になっていけるよう推進室と共に地域づくりをしていきましょう。

～安心システム推進会議の紹介～

2020年度は思いもよらない新型コロナウイルス禍の中で始まりました。

拠点では感染対策を取りながら活動のあり方が模索されています。

安心システム推進会議の座長のみなさんに活動状況などについて寄稿していただきました。



安心システム推進会議 流山

<座長紹介>

梅津 直美（風の村流山施設長）

4月に光ヶ丘より異動となりました。昭和44年1月1日生まれ、申年と酉年の狭間にありますもので、「落ち着きなく」「キーキー騒いで」「3歩歩くと忘れてしまう」特徴がございます。半世紀を生きて参りましたが、生まれた日に宿っているこの性分は治りそうにありません。座右の銘は「継続は力なり」です。仕事であれ遊びであれ「楽しい」を「続ける」ことは生きていく中で大切なことだと思っています。



<2020年度の活動状況とこれから>

流山は、「から風流」において「ワンデイシェフ」や「ケアラズカフェ」「子ども食堂」など多様な活動を展開していましたが、「コロナ禍」において、すべて中止になってしまいました。しかし、「居場所」や「食」に対するニーズは現在進行形です。私達は、「フードパントリー」という方法で「食」をサポートすることにし、毎月1回・土日にかけて約100人分の食材を配布しております。幸いに、食材の寄付をしていただける企業や個人の方がおり、お米からお菓子など多様な食材を配布することができています。

また、「ケアラズカフェ」も「みんなのカフェ」と

名前を変えて、「with コロナ」だけど一人じゃないホッとできる「居場所」を美味しいコーヒーと共に提供しています。

「風の村流山の安心システム」は、どうなるかといのかと考えます。拠点は、流山の中でも高齢率が高い地域にあります。子どもの貧困もあります。そしてそれを支えようとする地域の思いが点在しています。「から風流」にあれば、「誰かいる」「相談できる」「何かしてもらいたい」「何かしてあげたい」が形になる場所になるように、私たちは「風のように寄り添う村人」となれたらいいなと思っています。

<座長紹介>

岩上 章子（コミュニティアケア街ねっと理事長）

福岡県北九州市出身、2001年に生活クラブ虹の街の組合員活動に参加、役員・職員を経て2017年度からコミュニティアケア街ねっと代表。



<2020年度の活動状況とこれから>

3年目となる「地域食堂～みんなのテーブル～」は独居の高齢者の憩いの場であり、子育て世代の息抜きでした。ここならではの交流の再開を望む声を受け、8月よりまずお茶会を再開しましたが、やはり食事に関するニーズは高く、10月よりまずはこれまでに参加された高齢者の方を対象に、人数限定、座席は対面を避け、食事中の会話は控えるなど配慮し実施していく計画です。

「ラジオ体操」や「シニアリーダー体操」は8月に開始。久しぶりにいつもの面々が集まって楽しそうに過ごす姿に「もうちょっと抑えた方が…」と言いたい気持ちと葛藤し見守っています。主催はあくまで自治会、私たちは相談に乗り、お手伝いです。

コミュニティアケア街ねっとの事業でもある地域交流のための講座「あみいこ」ですが、ヨガは定員を減らしたため満席が続いています。コロナ対策をきっかけに清掃などを一緒に行うようになったことは怪我の功名でした。麻雀は当面は卓を囲まない麻雀教室に、アンチエイジング料理は食材を届けお会いした後、教室はオンラインで。防災教室は千葉県生活支援コーディネーターとも連携した講座にアレンジするなどし、下期の開催に向けて準備中です。放課後の居場所「子どもカフェ」も徐々に活動を開始しています。

Withコロナの生活や今後の活動を模索していくにあたり、9月に施設内の診療所の医師による講演会を開催します。このような機会を通じ、再開を検討中の「風の村サロン」や「ケアラズカフェぼちぼち」「猫の譲渡会」といった活動の今後を考えていきます。

こういった取り組みを通じ、いなげビレッジの各団体には地域の高齢者がふらっと訪れ、ちょっとした困りごとが相談できるようになっています。また地域の気になる方にこちらから声をかけ、団体間で情報共有することも多くあります。一方、昨年隣接する団地訪問を実施した際、いなげビレッジの機能をご存じない方も多く力不足を実感しました。つながっていない方への周知活動が課題と言えます。地域の皆さんとの繋がりを広げ、皆さんの参加や行動を応援していきたいと思っています。



<座長紹介>

長崎 直子（風の村高根台つどいの家施設長）

2019年12月、船橋・サポートハウス高根台に赴任し、4月から安心システム船橋をまとめることになりました。昨年未までも市川の安心システムに関わってきましたが、船橋は事業所も利用者も職員も多く、安心システムの活動も、サロンやカフェ、セミナーの他にイベント（ポッチャ、映画会）など、とても充実していることに驚きました。



<2020年度の活動状況とこれから>

私が赴任してきた12月は丁度クリスマス会シーズンで、毎日のようにサロンやカフェが開催され、地域のボランティアの方や利用者、職員が交流している様子を、頭の中はクリスマスソングが鳴りっぱなしで、目をくるくるさせながら眺めていました。

ところが年が明けて、新型コロナウイルス感染拡大により全ての活動が一旦中止になり、開催に向けて準備してきたキッズカフェ（子供食堂）も開始出来ず、とても残念な事態となりました。

4月以降は、安心システム推進会議は開催し、今年度の活動計画や、コロナ禍の中で出来る活動はないか、皆で意見を出し合い、7月にはサポートハウスに出張カフェを開催、感染予防対策をしたボランティア職員がサポートハウスの食堂で、豆から挽いてドリッした

コーヒーを提供し、またサロンの参加者には往復はがきを出して、コロナ禍での皆さんの状況確認など出来たら、次のサロン開催に繋がるのではと考え、準備しています。

高根台つどいの家は昨年開設10周年を迎えました。開設当初から地域の方々と共に歩んで来た経緯があり、この安心システムの活動も地域の方々のお陰で充実したものになっていました。今年コロナ禍の中での活動中止の期間は、一旦振出しに戻って今までの活動を振り返り、これからどんな活動に繋げていきたいのか、再確認する期間だと思えます。今までの繋がりがりや交流の場、活動が、これから10年後も20年後も長く繋がって行く様に、今後も大事に育てていきたいと思えます。

<座長紹介>

五十嵐 新二（風の村作草部施設長）

<2020年度の活動状況とこれから>

風の村作草部は開所し4年目を迎えました。生活クラブ安心システムにおいては、買い物バスを毎月2回、稲毛区社協さんと協力し運行しています。それ以外のところでは、認知症サポーター養成講座や講師の派遣等を行っています。これからの安心システムの理想

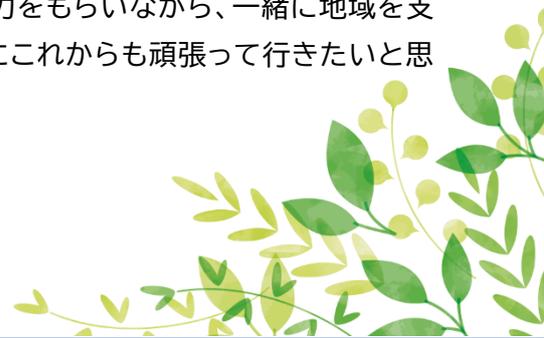
の形は、地域のコミュニティーセンターのように、多様な方の集まる場所になって行ければと考えています。ロビー



に新聞だけを読みに来る近所のおじちゃんがいる、学校の帰りに立ち寄り宿題をしている子供、移動販売やパンを買いに来る近隣の方、ボランティアで施設運営を支えてくれ、施設に来ることが日常になっている方、その方々それぞれの使い方で風の村作草部を利用し、その中から身近な介護、障がいなどのお困り事の相談やサービスの利用などに繋ぐことができると考えています。介護や障がいなどのサービスが必要とされる方々だけが風の村を利用されるのではなく、風の村に集まる人の中からサービス等に繋がる、そんな形が増えていければいいなあと思います。その為には、風の村に人が集まる仕組みを作らなければいけないと考えています。買い物バス以外の食料品などを購入する機会を作ることも一つかと思しますので、現在、移動販売車などのリサーチをしています。近隣の就労支援事業所のパンを定期的に販売することを始めました。今後は、外部の方が購入しやすいような販売方法や広報の仕方などを検討して行く

予定です。また、災害時に地域を支えることも安心システムの一つと考え、災害時に使える井戸を設置しました。ベンチやカフェパラソルを設置してありますが、まだまだ、ハード的なことも含め人が集まりやすい環境にはなっていないので、少しずつ形にしていきたいと思えます。

先日、老老介護となっている近所の方が、民生委員さんのところに相談に行くと、色々な事業所がのっている千葉市のパンフレットに線を引き、『風の村さんに行くといいよ』と言われ、こちらに来ましたという方がいました。地域のみなさんのお困り事は、風の村に行けばよいという認識をさらに深い物にして行き、地域の皆さんに協力をもらいながら、一緒に地域を支えていけるようにこれからも頑張っていきたいと思えます。



<座長紹介>

曾根 隆郁（風の村光ヶ丘サポートハウス施設長）

生活クラブ風の村光ヶ丘の施設長に4月より着任しました。風の村への入職は2019年10月と経験も浅いですが、今まで介護職員・生活相談員・管理者と経験したことをこの法人で生かしていきたいと考えておりますので、皆様からご支援ご鞭撻を頂きながら、光ヶ丘拠点の発展とご利用になられている利用者の皆様・地域の皆様と働く職員のために微力ながら邁進していきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。



<2020年度の活動状況とこれから>

さて、2020年度の光ヶ丘での活動状況としましては、コロナ感染症の拡大等により自粛をしていた状況がありましたが、8月より地域サロンや集まりを徐々に再開したところとなっております。今年度よりコミュニティデザインの手法を取り入れていくことでより地域に求められる拠点となるよう、10月以降も

感染症状況の把握をして感染予防に努めつつ、行政の指針に沿って活動を進めていきます。

今の地域とのつながりを継続しつつ、地域の方々が安心して暮らしていただけるために、今後は、買い物ができる場所の提供を地域の商店等に協力して頂きながら進めていくことで、自然に拠点に足を運んで

いただけるための試みを検討することを推進したいと考えております。また、最近の自然災害時の買い物難民の問題や老々介護で買い物に苦慮されている方々のために、「置きぐすり」ならぬ「食の救急箱」を企画し、進めていきたいと考えております。災害備蓄品があってもいざ使おうとするときに賞味期限切れになっていたり、普段は買い物に行くが体調が悪くていけない、買い物に行っても「買占め」状態で買うこ

とができないなど、皆様のちょっとした不安に対して自宅にあったら助かるといったものを用意してあったなら安心できると思います。

拠点を利用している方も拠点にかかわる方も、地域の方々も安心して暮らしていけるために必要なことを皆様の協力を頂きながら進めていきたいと思っておりますので、今後も皆様よろしく願いいたします。

安心システム推進会議 さくら

<座長紹介>

石井 康治（風の村さくら施設長）

2019年4月に作草部から異動となり就任しております。佐倉市とは縁がなかったので、就任当初は市内の地名も全くわかりませんでした。最近嫌いだっただ虫たちや爬虫類にも少しだけ慣れてきました。いや、まだ苦手かな？！

<2020年度の活動状況とこれから>

買い物に困っている地域住民の方にとって、コロナが流行っていようとなかろうと、買い物バスが必要であることに変わりはありません。若干迷いはありましたが、マスクの着用と体温等の体調チェック確認後の乗車(参加者及びボランティア)を行うことを条件に、買い物バスの継続運行を決断しました。サロン等の飲食を伴うイベントは自粛しているため、今年度は買い物バスをみの活動となっております。

千成という高齢化率が40%を超える地域があります。昨年自治会でアンケートを行い、改めて買い物に困っているニーズが高いことが確認されました。この間、自治会と風の村で協議を重ね、自治会独自の既存助け合いサービス(千成ふれあいサービス)に買い物バスを追加することになりました。車両とドライバーを風の村が派遣し、添乗員や参加者集約のオペレーションは自治会が担う、千成独自の買い物バスが9月からスタートします。

千成地区は、高齢化率も高いのですが、幼稚園もあり若い子育て世代の活動もさかんです。そして自治会



の皆さんが、この超高齢社会の中で共生していくことを我がごととして捉え、とてもバイタリティにあふれています。地域を支えるにあたり、主役は地域住民です。私たちが目立つ必要はなく、側面的に支援していく形が「はまる」と感じています。コロナの影響で、できることは限られていますが、後々は出張介護教室等のコラボ企画も行って、地域の方との距離を近づけていきたいと思っております。

自治会役員の方の中には、ご自身の身内の方が風の村安心ケアシステム(訪問介護、訪問介護、デイサービス等の介護保険サービス事業)を既に利用されている方もいらっしゃいました。歴史の古い佐倉に風の村が拠点を構えて13年目になります。この間の事業活動や地域活動が、しっかりと地域に根付いていることを実感しています。先代の施設長さんたちや皆さんが築いてきたものをしっかりと受け継ぎ、撒いてきた種がしっかりと実り花を咲かせられるように、地域貢献していきたいと思っております。

<座長紹介>

村井 香織 (風の村特養ホーム八街施設長)

八街で働くようになって20年経ちました。自分が住んでいる所よりも、裏道含めて詳しくなっています。好きなことは、自然の中を歩くことです。勤務する八街の特養ホームも緑に囲まれた大自然の中にありますので、この場所が大好きです。



<2020年度の活動状況とこれから>

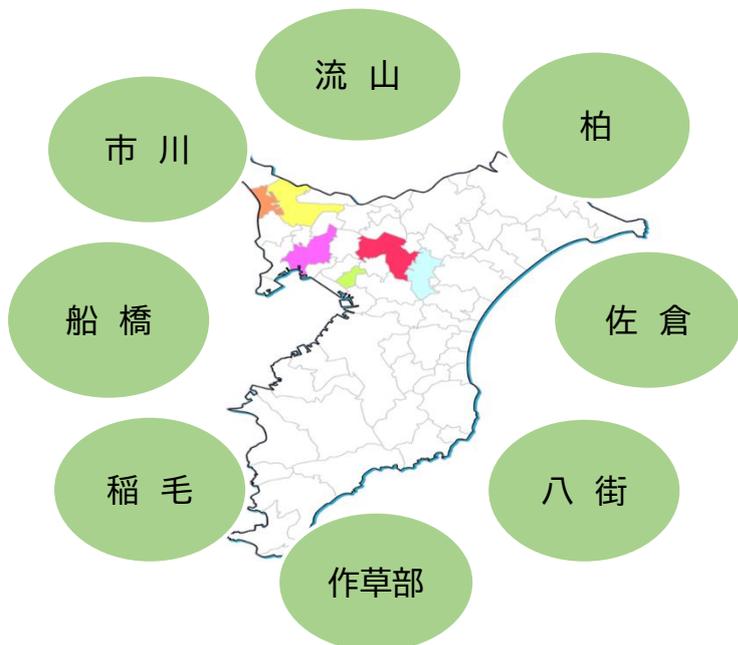
コロナ禍での活動に最初はいろいろ悩みました。未経験でのなかから、緊急事態宣言から活動そのものを中止にしたものもあります。しかし、新生活様式の中でできることの取り組み方法を考えて少しずつ活動を再開しました。感染対策を実践したうえで、集まるけど、食事会はないのケアメンレンジャー、だれでも食堂はフードパントリーとして、食材やお菓子を配り、子育てサロンはオンラインにて開催しています。買い物に不便をきたすので、参加者の体調を把握した上で、ふうちゃん号(買い物支援バス)は継続しています。どの活動も、参加されている方にとっては、居場

所ともなっている存在です。参加されている方の笑顔が一番ですね。

今年度新たに、NPO クラブと協力して東吉田で地域づくりの取り組みを始めます。

自然が豊かで、おいしい野菜がたくさん収穫できる、落花生も盛んです。そして、みなさん思いやりがあってやさしいです。いろいろなことを発掘して、東吉田の魅力を探すべく、地域住民が主役になって、元気で活力ある地域になっていくことをめざします。その過程を一緒に行っていくことで、地元根差した社会福祉法人であり続けたいです。

安心システムの広がり



街の縁側 松葉町(柏市)

街の縁側 大津ヶ丘(柏市)

よってって松葉町(柏市)

街の縁側 清水(野田市)

街の縁側 風の村サロン(成田市)

街の縁側 とんぼ舎(佐倉市)

多世代交流拠点
おおなみこなみ(千葉市)

※ 安心システム推進会議 市川は、次号でのご紹介となります。

フードパントリー

明日につながる元気が届きますように

2月27日、あまりにも唐突な一斉休校要請でした。3か月に及ぶ外出自粛が始まり、2016年4月から毎月第2木曜の夕方に開催してきた子供食堂の活動も休止せざるを得ませんでした。どうしよう・静まり返ったまちと見えない子供たちの様子に気持ちは焦ります。こんな時だからこそ何かできることはないのか、考えていても始まらない、一歩踏み出してやってみようと、同じ思いの仲間と共に、フードバンクの協力を得て「フードパントリー」を行うことになりました。

チラシの配布先は地図を見ながら丁寧に検討、食材の調達と仕分けは前日に、密を避ける動線の確保や感染防止対策も講じて始まった5月27日の当日は、続々と集ってきた人達の手に用意した100包を届けることができました。来てくれた子どもたちがリュックやカバンの中から折りたたまれたチラシと一緒に笑顔を見せてくれた時には、やって良かったと思えました。2回目からは、民生児童委員さん、小中学校の教頭先生方と事前の相談の上、学校からお知らせの配布をお願いしました。案内は小学生にも分かりやすい言葉で表現し全ルビに、裏面には笑顔を忘れないでほしいとはじめた「子どもじぶん新聞」を。日常に使う文房具や手作りのランチョンマットとマスク、家計に余裕が無いと後回しになりがちなお菓子など、手分けして整え、工夫しながら5回の開催を実施しています。

「パントリーの話題を聞くようになってきました。反響あると思いますよ。」と地域の方が話してくれる一方で、「目には見えないけれど、学校には生活に困窮している心配な生徒がいて、見守り支援や食支援の情報届けたい」と校長先生からもメッセージをいただきました。支援を必要としているところへ届けることの大事さと難しさは回を重ねるごとにもやもやと漂い、そのどうしたらいいの？の答え探しは終わらないのかもしれませんが、そうであっても、私たちにできることを一つひとつ続けながら食堂が再開できる時を待ちたいと思います。



▲お米や食材の袋詰め

▲スタッフ手作りマスク

みんなのカフェ

だれでも来てね、いつでもどうぞ

何かできることはないのか考える人同士や地域と学校がつながり、連携・協力できる関係性を持つことの大切さがよくわかりました。だれだって行ける場所は欲しくて、ひとりなのは自分だけじゃないと感じられると気持ちが楽になれたりします。新生「みんなのカフェ」は入口の幅を大きく広げて飲食の注文はしなくてもOK持ち込みOKに、だれでも気兼ねなく利用できる場として、火曜から土曜の午後1時から4時に開店しています。利用のしやすさとスタッフの仕事が重くならないよう工夫し、運営側と利用者双方のガイドラインと衛生管理マニュアルを作成して改善の改善、実態に合った十分なコロナ対策を講じて運営できるようになりました。

実践を経験していく中で、子ども支援・地域支援としてもっとできることはないか考えるようになり、月に1回のパントリーでは本当に支援を必要としている方や目の前の困っている人につながりにくいので、カフェの開店中にいつでもお米や麺類、缶詰等を手渡しできるように準備して「みんなのフードパントリー」を取り組んでいくことになりました。秘めたアイデアや不安な気持ち、思っている事を言える雰囲気があるから話し合いを重ねて伝え合うことができます。様々な立場の人の目には見えないけど確かにそこにある、それぞれの思いが人と人をつなぎ、形になっていくのでしょうか。みんなのカフェやフードパントリーがつながりの場となり、誰にとっても住みやすいまちになっていくための小さな一歩になりたいと願って、これからも仲間と協力して、だれでも安心して行ける居場所づくりを、思いを込めて継続していきたいと思います。



▲9月フードパントリーのチラシ

